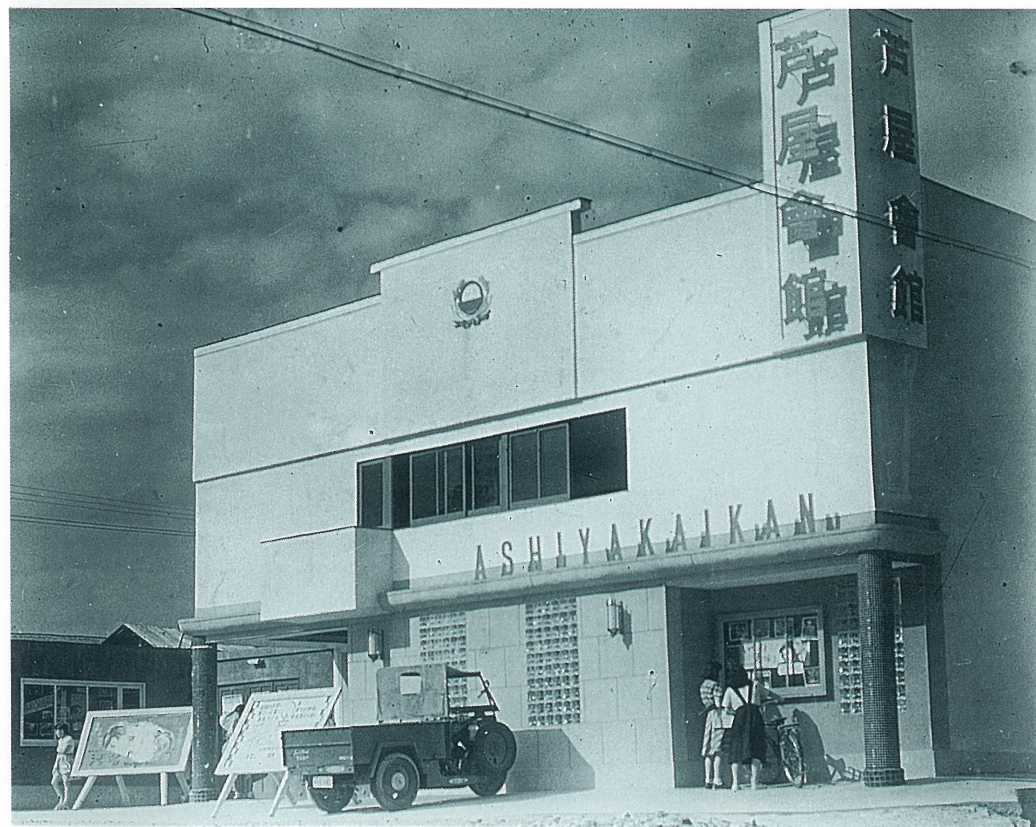


## VII 人と暮らし

戦災と相ついで襲来した台風による水害によって、市民の生活は大きな打撃をうけ、物資不足などによる不安定な状態が続きました。しかし、昭和25~27年ごろには漁法の変化により漁獲量が2倍となり、市民の消費生活に直結した小売業が盛んになるなど、市場・商店街が市民の台所として栄え、市民生活が安定へ向かいました。

昭和34年には、スーパーマーケットが出現し、市民の生活が、多様化に向かうこととなります。



**芦屋会館** 茶屋之町にあった映画館。戦後の昭和25年、市内に娯楽施設がなく、愛市会と近隣商店街の協力で4月15日実現した。26年、「細雪」の上映のときは、1日に3,000人もの入場者があり、長い行列をつくった。昭和27年株式会社となったが、社会情勢の変化につれ、34年ごろから経営難となり、入場者も最低となり、45年11月30日、かつて「アシカン」と親しまれた芦屋唯一の映画館は人びとに惜しまれながら閉館した。



**ビリヤード風景** 大正6年に開業し、現在も営業を続けているビリヤード場でのスナップ。

## 1 人びとの暮らしぶり

### 昭和34年ごろの芦屋浜いわし漁風景

芦屋でできた「いりじゃこ」は、とくに「みやじゃこ」といって味がよいので多くの人びとに喜ばれた。芦屋漁業組合から漁獲イワシの供給を受け加工された製品は、神戸・大阪・姫路などに出荷されていた。昭和37・38年ごろから化学調味料の普及や労働力の不足などによって、イリコの製造は減少し、やがて芦屋浜埋め立てにより、その風景も見られなくなった。



**名産みやじゃこの製造** 昭和30年ごろ、ゆでて天日乾しをしているところ。



**昭和25年ごろのいわし漁風景**



山手商店街(現山手サンモール) 昭和55年



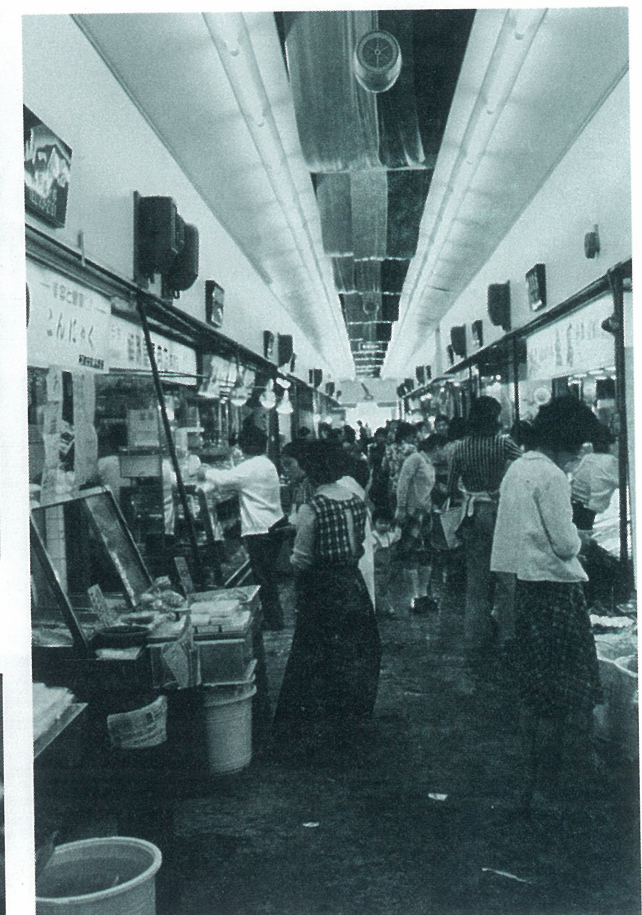
本通り商店街 昭和47年



三八通り商店街 昭和47年



甲陽市場 昭和47年



浜センター 昭和47年



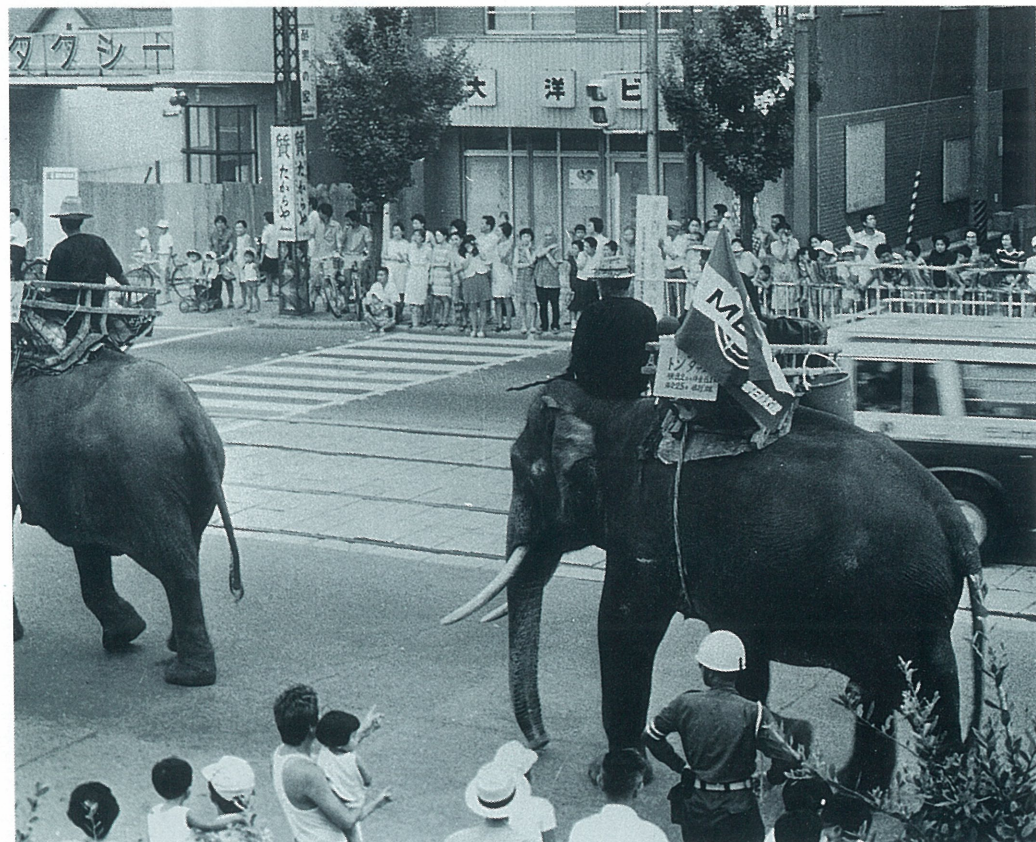
打出商店街 昭和47年



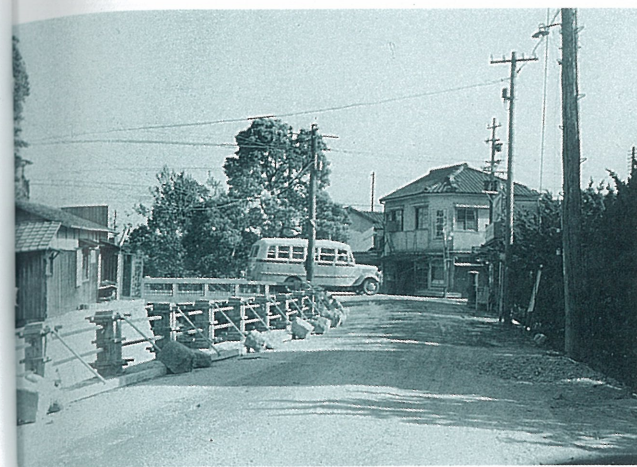
大原市場 昭和47年



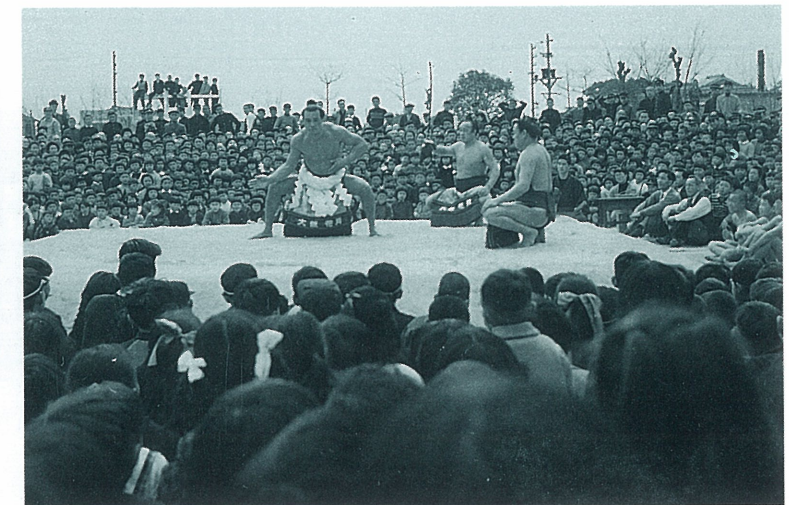
市役所前風景 昭和25年9月ごろ 当時は市警察時代で、お巡りさんの腕章にも芦屋市のマークがみられる。



象の市内行進 昭和45年に開催された万国博会場へ向かって業平橋東付近に行く珍しい風景。



宮川沿いを行くボンネットバス 昭和30年ごろ



精道小学校土俵開き 昭和32年3月、横綱千代の山を招いて土俵入りも行われた。



子どものスナップ 阪神芦屋駅南側たばこ店前でのスナップ。店頭には海水浴用品が並んでいる。



三八通りの夜店 昭和40年8月 夜店は、「3」と「8」のつく日に開かれた。

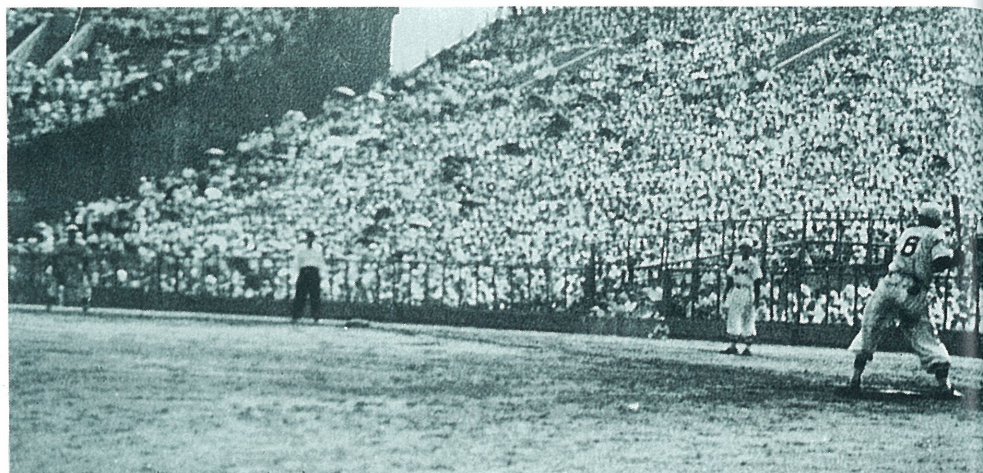


奥池で頼う 昭和40年

## 2 芦屋とスポーツ

### 県立芦屋高校野球部の全国制覇

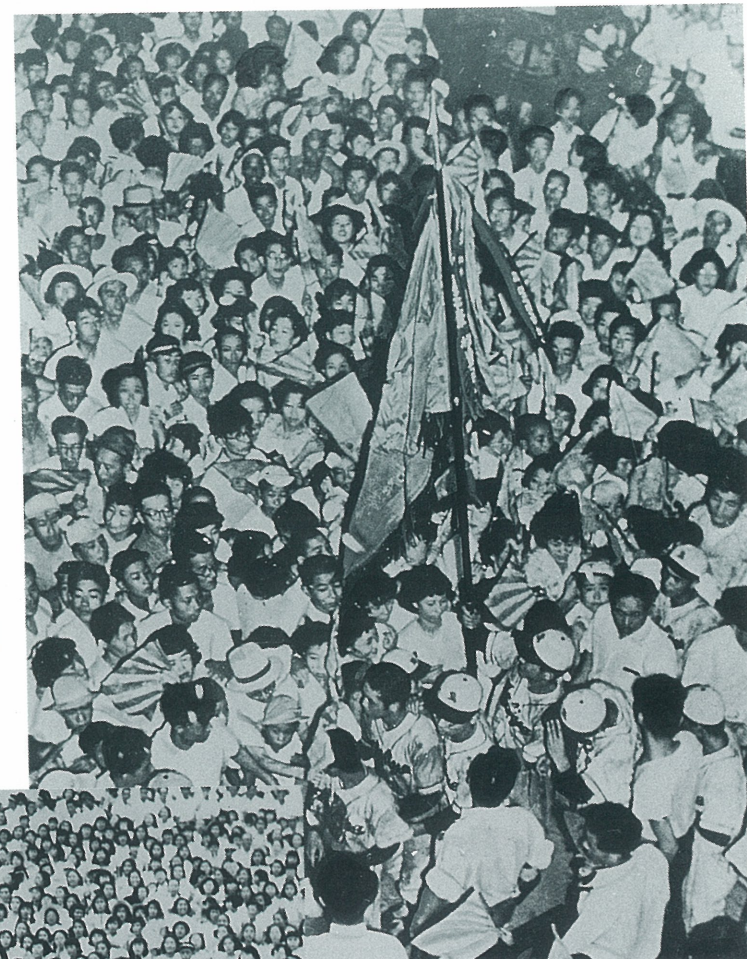
戦禍から立ち直った芦屋市に国際文化住宅都市建設法が公布され、本格的なまちづくりが始まりかけた昭和27年、県立芦屋高校が全国高校野球大会優勝という大偉業を成しとげました。



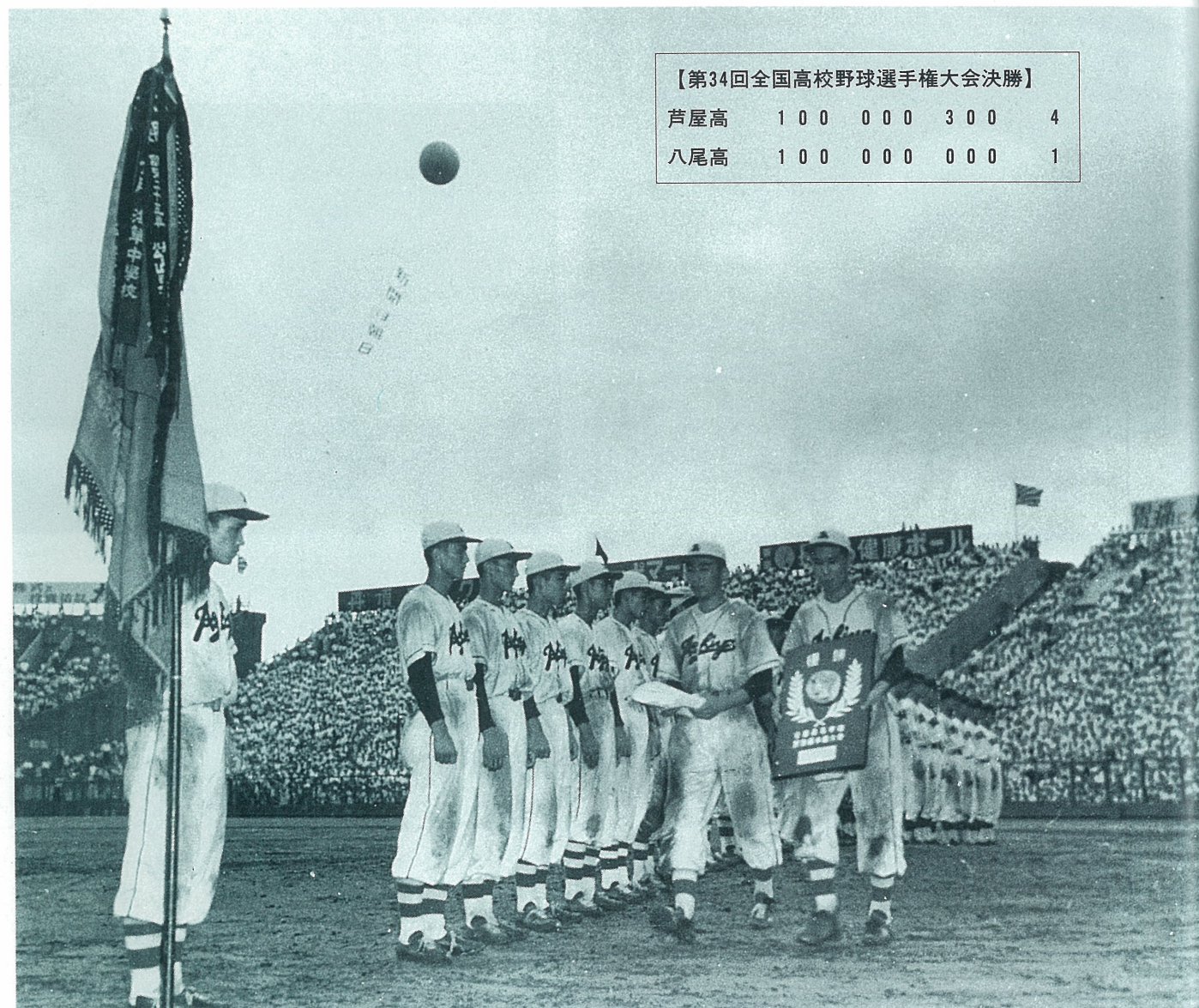
準決勝の成田高戦 立ち上がりのバンド戦法で3-0で攻め勝った。



試合後の場内優勝行進



わきかえる芦屋市民 芦屋市役所前で大歓迎を受ける芦屋高校チーム。甲子園から芦屋までの阪神国道は「祝優勝」の旗を手にした人びとが切れ目なしに立ち並んだ。



【第34回全国高校野球選手権大会決勝】

芦屋高	1 0 0	0 0 0	3 0 0	4
八尾高	1 0 0	0 0 0	0 0 0	1



優勝旗と楯をもつての記念撮影



翌年の優勝旗返還 県立芦屋高校は翌28年も出場し2回戦で延長の末、御所実業に敗れた。

表彰式 決勝戦当日、市内では臨時休業の市場や商店街も出て、灘の酒樽・打出の「大榎」まで持ち出して市民総出の応援が行われた。

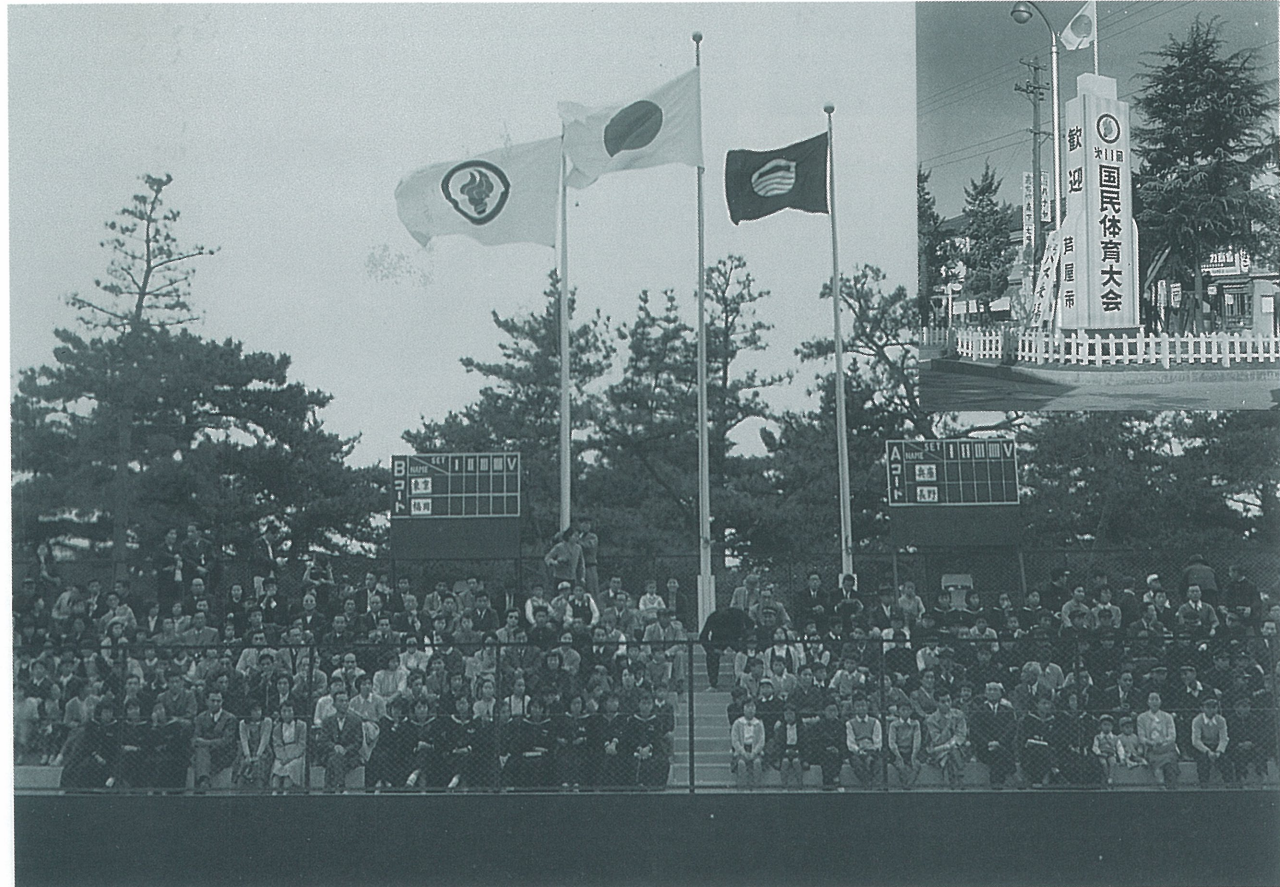
## 国民体育大会

昭和31年に行われた兵庫県での第11回国民体育大会の庭球競技は松浜町「芦屋庭球場」で、ピストル競技は警察学校で開催されました。

テニスではこの国体競技誘致に向けて働きかけを行った芦屋市体育協会初代会長松岡潤吉氏のお孫さんの松岡功氏（当時甲南大学生、後にデビスカップ選手）が開会式の選手宣誓をし、見事優勝しています。



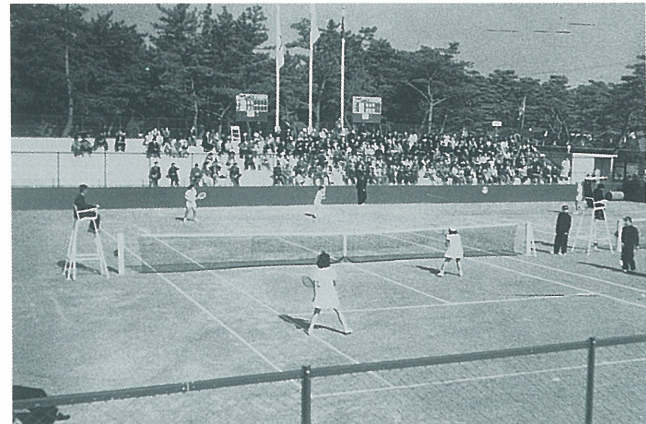
庭球競技には昭和天皇皇后両陛下もご臨席された



芦屋庭球場にはためく国体旗

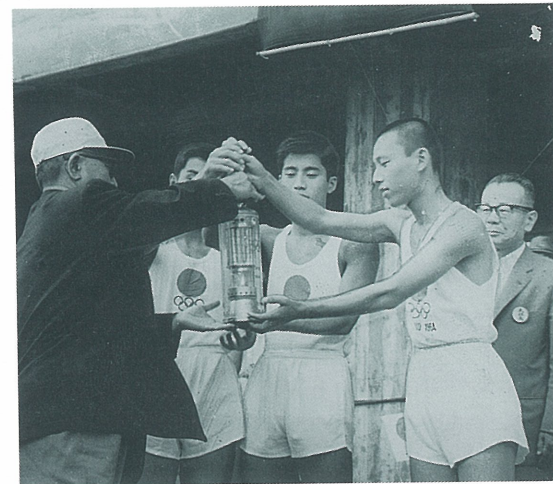


警察学校で行われたピストル競技



テニス競技

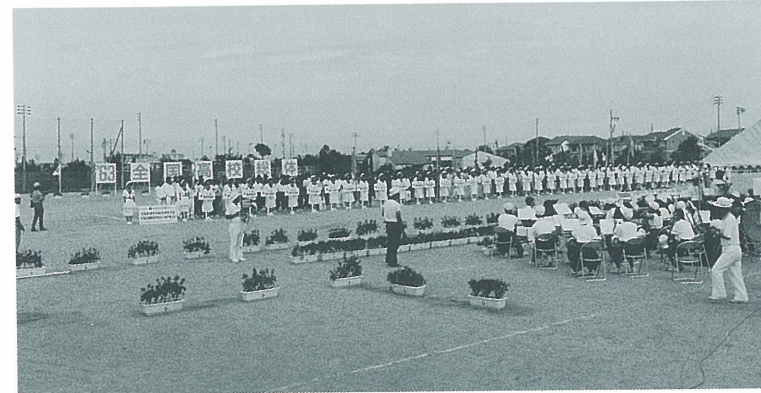
## その他のスポーツ



東京オリンピック聖火到着（市役所前） 昭和39年



東京オリンピック聖火出発（市役所前） 昭和39年



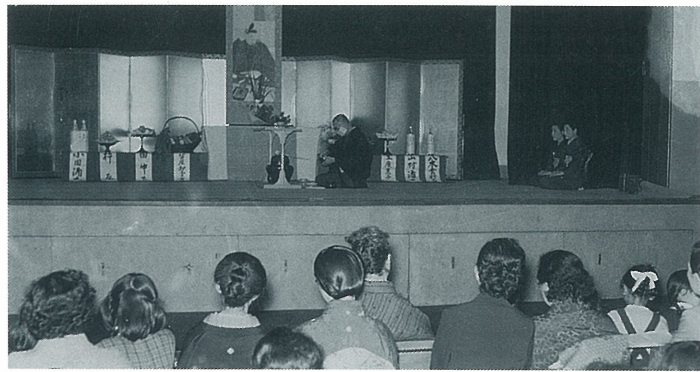
高校総体ヨット競技 昭和63年  
8月、県立海洋体育館を中心に  
芦屋沖3キロメートルの海上で  
行われた。



レース中の各校ヨット 男子スナイプ級に出場した県立芦屋高校は、総合11位と大健闘した。

### 3 芦屋のまつり

業平祭り 昭和27年4月芦屋短歌会が発足し、5月第1回業平祭りが行われた(写真は昭和30年ごろ)。



業平祭り 昭和30年ごろ



ほうれん巡幸 昭和44年10月



芦屋神社の祭礼 だんじり 昭和35年ごろ



あしやまつり 昭和33年から開催。写真は34年第2回のときのもの。



あしやまつり パレード



芦屋山まつり 昭和45年

芦屋山まつり 昭和40年以前は「岩まつり」として、ロックガーデンを中心に開催され、市民に親しまれてきた。

## 4 芦屋浜海水浴場



芦屋海水浴場 昭和30年ごろ  
昭和23年、芦屋浜に市営海水浴場が開設された。芦屋の海岸は潮の干満の差があまりなく、白砂青松で遠浅、海水が清澄と海水浴場に適した条件を備えていた。シーズン中は海の家が立ち並び、アトラクションでにぎわい、最盛時ひと夏で34万人の人出があったといわれている。



芦屋海水浴場でのアトラクション



昭和25年ごろの海水浴風景 人出でにぎわう真夏の海辺



水着写真コンクール 昭和32年8月に第1回撮影会が行われた。



昭和36年ごろの海水浴場 このころになると、潮流の関係で砂浜がへり、また芦屋浜の埋め立ても決まり、昔日の面影もなくなってきた。



芦屋浜水練学校校長 故高石勝男氏 元オリンピック選手の故高石勝男校長の指導による芦屋浜水練学校が昭和24年に開校し、多くの子どもたちが水泳を学んだ。



市民プールに移った水練学校 30年代後半から海水汚染がすすみ、39年には海水浴場は閉鎖、水練学校も中学校や市民プールで開校されることになった。

## 5 台風などの被害



ジェーン台風の被害を受けた伊勢町付近のようす 戦災の傷あと癒されぬ昭和25年9月、ジェーン台風が襲来した。近畿・中国・四国・北陸を蹂躞（じゅうりん）し、死傷者2,000余人、被災者50万人という大きな被害をもたらした。芦屋市でも、浜地区に多大の被害を残した。



ジェーン台風での防潮堤の決壊 伊勢町付近 ジェーン台風による高潮によって東西150メートルにわたって決壊し、民家に大きな被害をもたらした。



ジェーン台風後の救援活動



第2室戸台風 昭和36年9月第2室戸台風が上陸し、近畿を中心に死者202人、被害家屋98万戸、最大瞬間風速84.5メートルを記録するなど、大暴れした。



第2室戸台風 西蔵町海技大学北側付近 中央の民家は撮影直後強風によって倒壊した。



豪雨で倒壊した公光橋 昭和42年



濁流に洗われる上宮川町付近 昭和42年7月